

大阪市障がい者施策推進協議会障がい者計画策定・推進部会

第2回ワーキング会議 議事録

日 時 : 令和4年7月5日(火) 午前10時から12時まで

会 場 : 大阪市役所 屋上階 P1 共通会議室

出席委員 : 三田座長、井上副座長、芦田委員、大野委員 (WEB 参加)、酒井京子委員、西委員、
長谷川委員、福田委員、星沢委員、松本委員、溝上委員、山内委員、山梨委員

司会 (障がい福祉課 村田) <開会、出席者紹介等>

三田座長

- ・ 事務局からご案内ありましたとおり、膨大な内容ですので、時間を区切って円滑に進めたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。
- ・ 議題1について事務局から説明をお願いします。

塩谷障がい福祉課長代理

《 議題1 資料2-1・2-2・3-1・3-2について説明 》

三田座長

- ・ 本人用、家族用の修正点についてご説明いただきました。
- ・ ご質問ご意見いかがでしょうか。

酒井委員

- ・ 資料3-1、27ページ問37の情報通信機器を使って主に何をするかについての質問ですが、主にコミュニケーション、連絡を取るということが中心で書かれています。
- ・ 今は多様な働き方で、特に身体や精神の方が中心ですが、テレワークを活用して自宅で仕事をしている方もいるので、その辺のニーズを知りたいです。
- ・ 「テレワークをする」という選択肢を追加していただけないでしょうか。

塩谷障がい福祉課長代理

- ・ 選択肢に追加させていただきます。

三田座長

- ・ 他はいかがでしょう。
- ・ 時間がないと伝えましたが、ここで言えることは言っておいていただければと思いますが、よろしいでしょうか。
- ・ では、進めさせていただきます。
- ・ 議題の2、調査票(案)について事務局からご説明をお願いします。

西川運営指導課長

《 議題 2 資料 4－1・5－1 について説明 》

塩谷障がい福祉課長代理

《 議題 2 資料 4－3・4－4・5－3・5－4 について説明 》

三田座長

- ・ ありがとうございます。
- ・ いくつかの調査票について、ご説明をいただきましたけれども、いかがでしょうか。
- ・ WEB参加の大野委員から家族用調査票への質問で手が上がっておりました。

大野委員

- ・ 資料 3－2、家族用調査票 2 ページの問 4 で家族の収入について質問していますが、これはどういう意図で質問しているのでしょうか。
- ・ また、関連して 11 ページ、問 21 で障がいのある方を介助する上での困りごとを聞いている中で、選択肢「2 経済的なこと」があります。
- ・ 家族自身の経済状況を聞いていますが、障がいのある方への経済的な支援を家族が行うという前提で聞いているのでしょうか。
- ・ それとも家族自身の経済的な状況を聞いているのでしょうか。
- ・ 家族が障がいのある方の生活を経済的に支えるという前提は、現実ではありますが、今後に向けて納得しがたいので、その辺の意図をお聞かせください。

八木障がい福祉課長

- ・ 収入状況についての設問は、前回調査の際にも議論いただいた記憶があります。
- ・ その時の経過は詳しく思い出せませんが、実態を把握するという意味で必要ということで、追加した質問だったと思います。
- ・ ご指摘のように、「経済的なこと」という選択肢があるのも実態を把握するためであり、前提として家族が養うべきという趣旨ではありません。
- ・ 現状がどうなっているのかを把握するための選択肢だと記憶しております。

三田座長

- ・ これまでも同じような話をした記憶があります。
- ・ ご家族の方に、なるべく誤解を与えないようにと思いますが、家族用の調査票ですので、ご家族の経済状況をお聞きする意図になっており、これまでもこのように質問してきましたが、変えた方が良いでしょうか。

大野委員

- ・ 議論を明確に覚えておらず申し訳ございませんが、家族自身の生活状況を質問する真意は、世界的にみても日本の障がい年金が足りないということから、見かねた家族が支援するという現状があります。
- ・ 家族自身が高齢で、年金で生活していたり、障がいがあるが故に家族が就労を諦めるという

状況もあり、家族の負担となっている状況を質問しているというニュアンスも消えません。

- ・ なんで家族の生活状況を質問しているのかということをもう一度伺いたいです。
- ・ 家族の生活状況が非常に厳しいということであれば、同居手当や介助手当などの保障や、家族に対する福祉サービスの利用料を免除するとか、そういう方向になります。
- ・ 家族の生活状況の結果から、家族支援につなげる意図はあるのでしょうか。

三田座長

- ・ 私の印象としては、そこまで深いことを想定した質問ではなく、障がいのある方の支援が家族に任せ過ぎている状況があり、家族がいろんな困難を抱えています。
- ・ それを分析する際に、ご家族の方の経済的な支援も今の社会では当てにしている実態があるということ把握するために設けた質問という印象があります。

大野委員

- ・ 家族の負担が発生していることに対しての大阪市の具体の援助は何でしょうか。

井上副座長

- ・ 今までの経過もあり、課題としてはずっと挙げられています。
- ・ このような議論は、この調査の結果を受けて計画を作るときに議論をするべきことです。
- ・ 調査は、家族の負担が大きいという状況を把握するために実施するので、議論の問題と分けて考えた方がいいと思います。
- ・ これまでも、そういう形で議論してきましたし、調査結果で全政策を決定するわけではないので、実態を調べるための調査になります。

大野委員

- ・ 私は、一昨年委員となり途中からの関わりでしたので、そもそもの議論も知らないのかもしれないかもしれません。
- ・ 調査がそういう前提という事はわかりました。

井上委員

- ・ 調査の集計結果が出て、分析していく段階で、今のようなご意見を出していただきたらと思います。

三田座長

- ・ 資料5－1、事業者調査票の5ページ、一番下の問5です。
- ・ 「()・」という表記では、何をどこに書くように求められているかが一目でわからないため、答えづらい気がします。
- ・ 再検討をお願いいたします。

西川運営指導課長

- ・ 行政オンラインシステムのアンケート機能を使って進めて参りますので、記述する欄につい

ては、再考させていただきます。

三田座長

- ・ その前の説明と今の答えの繋がりがわかりません。

八木障がい福祉課長

- ・ システムを通じてアンケートに答えていただくので、今のご指摘の点を踏まえて、記載のしやすい様式にしていきたいと思いますという趣旨です。

山内委員

- ・ 3点あります。
- ・ 1点目は、資料5－1（事業者用調査票）とそれから資料5－4（入所施設管理者用）で、研修やBCPなど同じ質問をしている部分があります。
- ・ 施設入所支援の選択肢も、事業者用調査票にあるので同じことを2回答えないといけない場合が出てきます。
- ・ そこは調整していただき、同じ事業者が何度も同じ質問に回答しなくていいように調整していただきたいです、

八木障がい福祉課長

- ・ サービス等事業者調査票は、全サービス提供事業者に送りますが、入所施設管理者用は、施設に入所されている方がいる施設に送っており、府外、市外を含め送っております。
- ・ もしかしたら、事業者によってはどちらの調査票も届くところが出てくるのかもしれませんが。

山内委員

- ・ 仕方がないということですか。
- ・ どう整理しているのかわかりませんが、サービス等事業者調査票については、入所支援の選択肢を削除してもいいかと思ったのですがいかがでしょうか。

八木障がい福祉課長

- ・ 法人にご記入いただいた場合に、施設入所もされていれば選択としては出てくると考えています。
- ・ 入所施設に調査票が2枚届くことがないように、調整させていただいた上で送らせていただきます。
- ・ 別の事業をされている事業者が、入所も行っている場合に選択できるように、選択肢があるという趣旨です。

山内委員

- ・ 2点目は、資料5－1の22ページ、設問26です。
- ・ 「当てはまる番号に一つだけ」と書いてありますが、それ以外にもあると思うので、選択肢に「6 その他」も追加していただけたらと思います。

- ・ というのは、問 25 の選択肢にもありませんが、私の現場での実践、実感で言うと、いわゆる自主避難で過ごすホテルなどの場所に実際に行くことができました。
- ・ 看護師さんなどは、費用は別として、自主避難場所について行政が提供していると聞いています。
- ・ ヘルパーや支援員などの福祉事業者についても、全部費用負担してほしいとは言いませんので、そういう場所を紹介するなど行ってほしいです。
- ・ 私の事業者では、いつも旅行でお世話になっている旅行業者に紹介してもらって、自費で行ったりとか、安いホテルの情報を交換したりしているので、費用負担は別として、行政でもそのような紹介を行ってほしい。
- ・ 問 26 に選択肢「その他」を追加したら、そういうことも書けるかなと思い、ご検討いただければと思います。

三田座長

- ・ 山内委員、問 26 の質問文にある「当てはまるもの一つだけ」はこのままでいいですか。

山内委員

- ・ 厳選するのではなく、複数でもいいと思います。
- ・ 「当てはまるもの一つだけ」にした理由を説明していただき納得できればいいと思いますが。

西川運営指導課長

- ・ 問 26 に関しましては、「当てはまるもすべて」としたら、全てに○が付く気がしますし、優先度の高いものを把握したいという意識はありました。
- ・ ご意見を踏まえまして、再検討いたします。
- ・ ホテル療養や、訪問診療の体制の提供とかそういった声もいただいていますので、「その他」の欄の追加というのも検討したいと思います。

三田座長

- ・ 優先度よりも困り度を測って欲しいので、どちらが優先か悩むより、全部に○が付くならそれが実態だと思います。

山内委員

- ・ 3 点目は、資料 5－4 の問 26、短期入所についてです。
- ・ 短期入所を「くり返し継続的に利用している」という選択肢で、前から井上委員からも言われていて、把握しようということだと思いますが、②の質問文で「課題があると感じていることについて」の前に「その内容や」という文言を追加した方がいいと思います。
- ・ 定期的に使うことは、レスパイトになるなど良いことである場合もあります。
- ・ しかし、「できたらもっと、ずっと使いたい」という希望があるけど、数が少なくて希望には答えられないといったような、具体的な実態もあるので、内容も書いた方が良くないと思いますので、ご検討いただきたいと思います。
- ・ 関連して、資料 5－1 障がい福祉サービス等事業者用調査票でも問 2 で短期入所の選択肢が

あります。

- ・ こちらの方でも何か実情を把握できるような質問ができればいいと思います。
- ・ 実際に、社会福祉法人の入所施設に併設している短期入所がコロナの関係で埋まってしまい休止が続いていたり、大阪市内だけでなくNPOや株式会社が提供している短期入所を利用している実態があるので、そういうこともわかったらいいと思います。
- ・ 資料5－1の短期入所を選択した利用者さんに、その事実を聞けるような問があったらいいなと思っています。
- ・ できれば結構ですので、ご検討いただければと思います。

八木障がい福祉課長

- ・ 資料5－5入所施設管理者の短期入所については、課題を聞いているところで、利用状況の内容の実態も含めて回答していただく方向で、自由記載がいいか選択肢を設けた方がいいか考えさせていただきます。
- ・ 加えて、資料5－1障がい福祉サービス等事業者用でも短期入所を選択した事業者の実態を把握できる項目を追加できないかということで、持ち帰って検討させていただきます。

三田座長

- ・ 短期入所だけ深堀するのもどうかと思いますが、事務局にて検討していただくとのことです。
- ・ 個人の意見としては、資料5－4では選択肢がある方が、課題が整理できそうな気がします。

芦田委員

- ・ 3点あります。
- ・ 1点目は、資料5－1、問6の②人材確保に関する質問ですが、選択肢「3 有資格者の確保が難しい」の有資格者は、どういった資格者を想定しているのでしょうか。
- ・ 例えば、サービス管理責任者や相談支援専門員を指しているのか、それとも、いわゆる国家資格である介護福祉士や社会福祉士、精神保健福祉士などを指しているのでしょうか。
- ・ 2点目は、資料5－1、問25、26のコロナに関する質問です。
- ・ 21ページの問24で「いいえ」を選択すると問26に進むとなっていますが、問26の支援を継続するのに必要なものというのと、問25の困りごとが、重複していると思います。
- ・ 問26の選択肢1～5と、プラスで山内委員がおっしゃったホテルなどの紹介という選択肢だけでいいかというのと、支援を継続するには問25の選択肢のガウンや手袋やフェイスシールドも必要です。
- ・ その辺の困りごとと支援の内容が混ざっている印象を受けます。
- ・ 問25と問26を分けて質問したり、問26は「当てはまるもの1つだけ」選択するようになっていたり、渾然一体となっていて、わかりにくいと思いました。
- ・ 3点目は、資料5－1、20ページの問23、BCPに関する質問です。
- ・ 選択肢が1～10まで記載していますが、災害時は、地域とどう連携していくかが非常に大事になってきます。
- ・ そういう意味では、「地域の防災訓練に参加しているのか」とか、「地域の避難所を確認しているのか」という地域情報も選択肢に加えることは非常に必要なことだと思います。

八木障がい福祉課長

- ・ まず、問6選択肢3の有資格者ですが、幅広く考えていきたいと思っており、こういう表現になっています。
- ・ 先ほど説明した通り、高齢の調査と同じ質問ですので、相談支援専門員や国家資格も幅広く含むと考えております。

西川運営指導課長

- ・ 山内委員、芦田委員のご指摘を踏まえて、問25・26は再考し整理させていただきます。
- ・ 問23のBCPについては、地域の防災訓練に参加しているか、地域の避難所を把握しているかといった地域情報を選択肢に加える方向で再考させていただきます。

三田座長

- ・ 日頃から地域と関係を取ろうと努力しているとか、連携が取れているかということですね。
- ・ 防災訓練に参加しているかということよりも、色々と意識して地域住民や地域の人々と繋がるように心がけているとか、そういう選択肢でもいいと思いますので、ご検討ください。

芦田委員

- ・ テナントビルの一角に事業所を構えているところは、あまり地域と繋がっていない、地域の防災訓練なんか知らない、地域の避難所がどこか知らないという状況が結構あります。
- ・ そういうことが必要だという意識付けも含めて選択肢に加えていただければと思います。
- ・ 書き方については、三田先生も言ってくださっていましたが、検討をよろしくお願いいたします。

山内委員

- ・ 私の所属する協議会でも、防災マニュアルの改訂のために危機管理室や関係部署と連携して進めおります。
- ・ 3月に防災指針の改定がありまして、私の所属する団体でも独自にアンケートをしており、各区の防災担当の方に連携を取ってアンケートをしたりしています。
- ・ 芦田委員のおっしゃるとおり、地域との関わりが、いざという時にものを言いますので、その取組について後押しをしようという思いもあります。
- ・ 危機管理室から話を伺っていると思いますが、私からも情報は提供させていただきますので一緒にやっていけたらなと思っています。

福田委員

- ・ 資料の5-1、11ページからの強度行動障がいのある方への支援、13ページからの発達障がいのある方への支援というところについてです。
- ・ 強度行動障がいに特に多いのは自閉症と言われています。私たちの協会でも強度行動障がいについてはすごく関心が高く、研修もよくしています。
- ・ 問の前段で、どういう方が強度行動障がいなのか記載する方がわかりやすいと思います。

- ・ 私の通っている施設でも、発達障がいの方が強度行動障がいで、なかなか施設に入れず、難しいからこの施設に来たと聞きました。いろんな方法で取り組んでいるのが現状です。
- ・ 自閉症の方が特に多いとも言われているので、一度聞いていただけたらありがたいと思います。

三田座長

- ・ 強度行動障がいについて説明をして、その中でも自閉症の方が多いと記載するというのでしょうか。

福田委員

- ・ 自閉症の事例で書かなくても、強度行動障がいの方は知的障がいの手帳を持っている人とか、そういう記載があれば大体わかると思います。

三田座長

- ・ 13 ページには発達障がいについて注釈で解説をしています。
- ・ 今回の調査が、全般的に解説が増えすぎていて、私は非常によくないと思っています。
- ・ 知らないのであれば知らないなりに答えてくれる方がいいと思います。
- ・ 先ほどの成年後見についてもですが、お金がかかると思い込んでいる人が解説を読んだ時に、「知らない私が駄目だった」と思い丸を付けないこと（選択しないこと）も想定されます。
- ・ 調査票は実態を明らかにするためのものなのに、解説が増えすぎているのが、気になっています。
- ・ それと、強度行動障がいを説明するのは私も難しいと思っていて、説明することで一部の人を傷つけるのもどうかと思ったりします。
- ・ 発達障がいの注釈の書き方も、異議がある人がいるかもしれません。
- ・ これは個人的な私の意見ですが、事務局はいかがでしょうか。

八木障がい福祉課長

- ・ ご意見を受けてどうすればいいのか把握しかねるところではありますが、例えば、「どんな手帳を持っている方が多いです」とかを追記するということですか。

三田座長

- ・ その前に、強度行動障がいの捉え方が回答者によって違うかもしれません。
- ・ その前提が違う中で、何人ぐらいいるかを聞いているので、基本となる障がいは精神もありますとか自閉症の強い方でとか、5人いたら5人分聞かないといけないのかとおと思いますが。

八木障がい福祉課長

- ・ 注意書きとして、目安となる基準を示していますし、人数は概数による記入という説明を記載しています。

三田座長

- ・ これだけではわからないということですよ。
- ・ いや、事業者への調査票なのでわかるのでしょうか。

福田委員

- ・ 強度行動障がいと発達障がいの項目を分けていますが、発達障がいの支援で、特に入所施設では、強度行動障がいの方が配慮されていることが多いと思うところもあります。サービスはそうじゃないかもしれませんが。
- ・ そのような状況もある中で、両方とも同じ内容で問われているので、わかりやすくしていただきたいと思います。
- ・ 発達障がいのある方で、強度行動障がいもある方を、もう少し安心して暮らせるようにしていきたいと思うので、この辺もしっかりと聞いていただきたいと思います。

芦田委員

- ・ 問 11 の米印で、強度行動障がいの基準が記載されていますが、強度行動障がいは加算があるので、事業者はこの基準に基づいて点数を確認する業務を常々行っています。
- ・ 事業者向けの調査票なので、この米印の記載でわかると思いますので、これ以上の説明は、事業者向けにはいらないと思います。

三田座長

- ・ 問 12 で配慮していることが「ある」「特にない」と聞いていますが、「特にない」に丸を付ける勇気がどこにあるのかと思います。
- ・ ご意見の趣旨は、もうちょっと聞いて、わかってほしいということだと思います。

井上委員

- ・ 今回は、実態を調査するものです。
- ・ 課題を回答いただくほかに、「特にない」という回答が増えてきたら、それが課題ということがわかると思います。
- ・ 調査の趣旨と、最終的に調査結果をどう計画にしていくか、議論していく必要があります。
- ・ 私から 2 点質問があります。
- ・ 1 点目は、資料 5－1、18 ページ問 22 の B C P の関係についてです。
- ・ 今回、B C P のことだけ質問を追加していますが、この間、法改正等々で、ハラスメント防止法ということで事業者運営の中にも規定を入れなければならないとか、質の向上ということで、児童のガイドラインが出ています。
- ・ 国が就労 B 型とか生活介護に、もっと自主点検をして質を上げなさいという趣旨のガイドラインを出しています。
- ・ ガイドラインだけ出して、実際に誰がどうやっていくかという政策はなく、どんなふうに進んでいるのかがわかりません。
- ・ 調査での質問項目は、虐待と災害だけになっていますが、今、国では質の向上ということで、一つは虐待とハラスメントの問題と、もう一つは、いわゆる事業ガイドラインの徹底ということでのスキルアップを事業者の課題にしていくことが示されています。

- ・ そのことは、今回の調査でどうするのでしょうか。
- ・ 2点目は、資料5－4、15ページ間25の地域移行の質問について、表現上の問題です。
- ・ 選択肢11で、「意識付け」という言葉を「意欲喚起」という言葉に変えていますが、「意欲喚起」とはどういうことでしょうか。
- ・ 意思決定支援をしっかりとしていくことが課題です。
- ・ 「意欲喚起」とか「意識づけ」という表現は好ましくなく、むしろ、後ろのカッコの「地域生活に関するイメージづくりなど」の方が良いのではないかと思います。
- ・ 行政的にあまり良い表現ではないと思います。

八木障がい福祉課長

- ・ 2点目のご質問については、「地域移行に関するイメージづくりなど」をそのまま選択肢にした方がよいというご指摘でよろしいでしょうか。

井上委員

- ・ 「意欲喚起」というと、利用者に指導をしなければならないイメージになります。

八木障がい福祉課長

- ・ 元の「意識づけ」もそういう側面が強いと思い変更したが、あまり変わっていないというご指摘ですね。
- ・ 「地域移行に関するイメージづくりなど」にすることで検討したいと思います。

三田座長

- ・ 要するに、イメージづくりの前に、本人が諦めてしまっています。
- ・ 本当は、地域での生活が無理だと思っている人に、「あなたはできるよ」と自信を持ってもらうことを一番やらないといけないと思っています。
- ・ 私は、多分その辺がやれていないと思っていますが、選択肢に「意識付け」「意欲喚起」という表現で書こうとすると全部本人側の要因になってしまいます。
- ・ 施設や病院が、「イメージづくりはやっているけど、本人がその気にならない」と言っているのをどうにかしたいという思いはあります。
- ・ どうしたらいいかは、事務局にお任せします。
- ・ 「意思決定支援」と書くと「意思がない」とか全部そういう捉え方をされてしまいます。

西川運営指導課長

- ・ BCPや虐待の設問を加えている部分については、BCPに関しては指定事業者に限られますが、資料5－1を回答するすべての事業者に対して、幅広く聞ける内容と考えております。
- ・ ガイドラインというのは、就労B型とか児童発達支援、放課後デイサービスとか、国があり方検討会議とかを進めているもので、個別の事業の種別ごとに、質の確保とか向上を図るために厚生労働省が出されていますが、先ほどの短期入所の件と同様に、調査で特定の事業の種類を深掘りした設問を入れていくかどうかになります。
- ・ ご意見をいただきながら考えたいと思いますが、いかがでしょうか。

井上委員

- ・ 質の向上ということで、どんな努力をしているかということです。
- ・ 例えば、「ガイドラインを活用して、自らチェックをしている」ということでもいいと思います。
- ・ 求められているのは、支援の質をどう上げていくのかということで、今、事業者の課題になっています。
- ・ そこを少し工夫してもらえたらと思いました。
- ・ ハラスメント防止法は、全事業者が対象ですが、行政はあまり意識がないのでしょうか。

西川運営指導課長

- ・ ハラスメント防止法とか、事業者全般に対して質の向上についてどういう取組を進めているかという設問を加えてはどうかというご意見でよろしいでしょうか。

井上委員

- ・ 何をもって今後の指導や援助をしていくかというための調査だと思います。
- ・ ただ、課題としては、先ほど述べた課題がそれぞれ事業者に関別で降りてきて、ガイドラインはこれですと紹介だけされる状況になっています。
- ・ そこに対してどんな援助が必要なのか、計画にどう盛り込むかというための調査だと思うので、担当部局でそこをどう考えているかだと思います。

三田座長

- ・ 井上委員のおっしゃっていることはわかりますが、どう調査票に活かすかは、私も今は思いついていません。
- ・ 分析の中でそれを強調するとかもできると思いますが、ご検討いただければと思います。

三田座長

- ・ 続きまして、議題3の3つの調査票について、事務局からご説明をお願いします。

松岡市心身障がい者リハビリテーションセンター相談課長兼発達障がい者支援担当課長

《 議題3 資料4-2・5-2について説明 》

平田難病対策担当課長

《 議題3 資料4-5・4-6・5-5・5-6について説明 》

三田座長

- ・ 3種類の調査票についてご説明いただきましたが、ご質問ご意見いかがでしょうか。
- ・ 全体でも結構です。最後に尋ねたいということがあればどうぞ。

山梨委員

- ・ 障がい者の場合、65 歳以上は介護保険の対象になります。
- ・ 65 歳になって初めて介護保険で受けてくださいという形になり、質問の中にはそういった部分が出てこないの、その辺はどう考えたらいいでしょうか。

三田座長

- ・ 65 歳になった時の困りごととかを把握するような調査とか、何か関連する項目とかがあるのかということですがいかがでしょうか。
- ・ 介護保険になった際に、戸惑いなどがあるということですが。

八木障がい福祉課長

- ・ 本人用の調査票で、要介護認定を受けられている方への設問がありまして、介護保険に関するサービスを利用して思うことという選択肢で、例えば「サービス利用の負担が大きい」とか、「障がい福祉サービスを継続して使いたい」とかを入れております。
- ・ 介護保険に移られた方のご意見も拾い上げるような形で進めているのですが、もう少し違った質問があった方がいいということでしょうか。

山梨委員

- ・ 書いてあるとおりですが、要するに障がい福祉サービスで無料だったものが、65 歳になったら有料になります。
- ・ その辺が載っていないとわからないので、ご存知なのかなと思いました。

三田座長

- ・ 資料 3－1、問 16 に「サービス利用料の負担が大きい」と選択肢がありますが、これでは足りないということでしょうか。

山梨委員

- ・ 要するに 65 歳になったら切り替わるといったところがわかりにくいです。
- ・ 負担が増えるというだけでは少しわかりにくいと思っています。

三田座長

- ・ 介護保険に関するサービスを利用して思うことという質問ですが、そこで、切り替わるといった情報がないということでしょうか。

山梨委員

- ・ 私自身、障がい福祉サービスで車椅子を無料で借りてパンクしたら無料で直してくれていたのが、65 歳になったら有料になりました。
- ・ 切り替わることに気がつかないから、いきなり有料になってしまうという形です。
- ・ この辺が非常に問題かなという気がします。
- ・ 個人的な話ですが、車いすのタイヤ交換をして 1 割負担で 6,000 円でした。

八木障がい福祉課長

- ・ 制度としては 65 歳になられた方は原則、介護保険をご利用いただきますが、それは一律で障がいのサービスを絶対使えないということではなく、障がいのサービスでないと提供を受けられないとか一定の条件のもと障がいのサービスも引き続き受けていただくことが可能です。
- ・ 65 歳になるまでの 5 年間、介護保険サービスに相当する障がい福祉サービスの支給決定を受けていた方で、申請していただくと、はみ出した分の介護保険の負担の分が返ってくるといった制度もできています。
- ・ ご指摘があったので、問 9 に選択肢を追加して説明文も入れております。
- ・ 制度が切り替わることで負担が発生している方がいることも存じ上げております。
- ・ ご意見としては受けとめさせていただきますが、調査にも入っていますので、今お答えできるものはないと思っています。

三田座長

- ・ 調査票 3－1 の一番最後の問 48 に、障がい者施策全般についての望むことの選択肢に、「16 高齢障がい者支援の充実」という項目があります。
- ・ だから、高齢になってもサービスの質が落ちないといったことを含んでいると読みとることもできると思います。
- ・ 山梨委員の趣旨としては、高齢になっても、不安なく過ごせるようにという事だと思います。急にお金が増加されてということではなく、そういう情報もあまり知られていないので不安が高まっているということだと思います。
- ・ もし反映できるのであれば、少し表現を変えとかでご検討いただければと思います。
- ・ 時間となりましたので、今日検討していただくものについては終わりということで、事務局にお返ししたいと思います。

八木障がい福祉課長

<閉会のあいさつ>